スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

埼玉県 鶴ヶ島市

自 治 体 名 ： 埼玉県鶴ヶ島市
担 当 課 名 ： 生涯学習スポーツ課
電 話 番 号 ： 049-271-1111

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	17.65 ㎢
人口	69,880 人
公立中学校数	5 校
公立中学校生徒数	1,562 人
部活動数	49 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定未

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

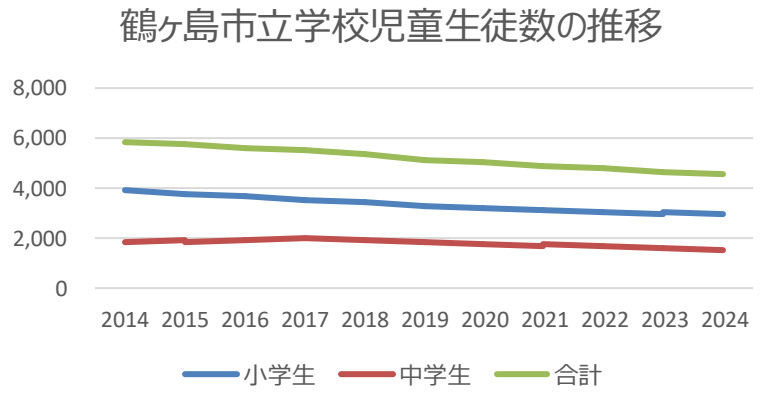
現在、当市の運動部活動の状況は、陸上競技、野球、バレーボール、サッカー、バスケット、ソフトボール、ソフトテニス、卓球、剣道、柔道、水泳、テニスの計12種目が活動しているが、このうち常時活動がある種目は９種目となっている。

少子化に伴い、常時活動のある部活動についても、各中学校に設置の無い部もあり、団体競技の部活動によっては、試合を組むことができない等の事態が起きている。

また、市内外には野球、サッカー、バスケットボール等の比較的人気のあるスポーツのクラブチームも相当数あることから、部活動の減少に拍車をかけている状況である。

こうしたことから、改革推進期間において、勝敗のみにとらわれない部活動に代わる新たな当市にあったクラブの形態目指すため、試行的に実施する。

これにより、参加者、指導者、保護者並びに各種スポーツ関係者の地域移行への理解を求め、速やかに移行が進められるよう取組むとともに、意識の醸成を図る必要がある。



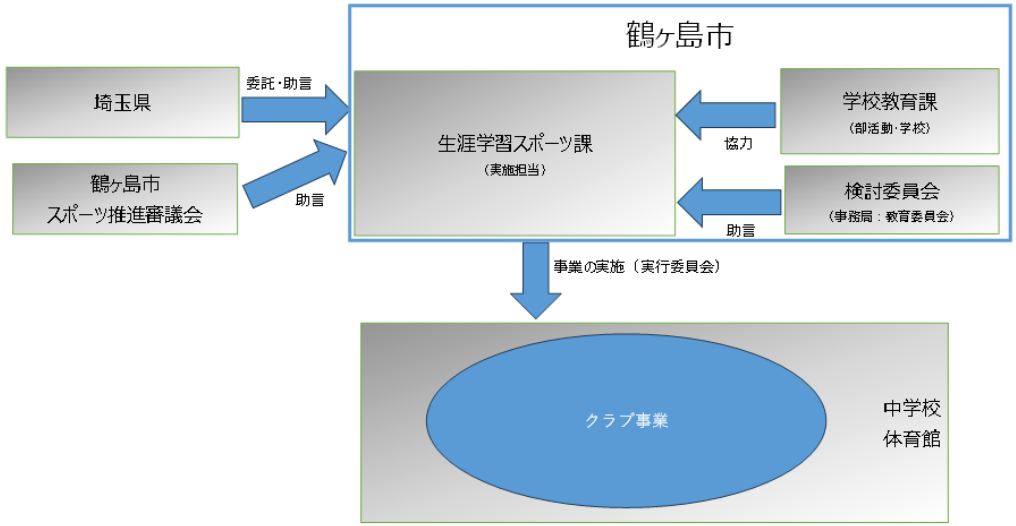
出典：学校基本調査

2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会

・学校教育課・・・既存部活動の情報提供
・中学校・・・学校施設の提供

◉首長部局（当市は教育委員会内に設置）

・生涯学習スポーツ課・・・生徒、保護者、学校関係者への周知と説明
実行委員会の運営
指導者、生徒の連絡調整、関係団体との連携

年間の事業スケジュール

令和6年3月	市予算成立
令和6年4月	校長会議等で事業の実施説明
令和6年7月	中学校保護者向けモデル事業実施通知
令和6年7月	バスケットボール部男女代表顧問と調整
令和6年9月	バスケットボール部保護者向け参加募集通知
令和6年10月	参加申込書回収～集計
令和6年11月	参加者あて実施案内 通信アプリ「BAND」のインストール確認
令和6年12月	事業実施（男女各4回）

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	5 校	実施した地域クラブ総数	2 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		2 クラブ（9 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	3人	全体の運営スタッフ数	3 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
鶴ヶ島市部活動の地域クラブ化実行委員会（男子）	直営	バスケットボール	月４ 回	午前及び午後の3時間程度	1年生 18人 2年生 19人	令和6年12月	鶴ヶ島市立鶴ヶ島中学校ほか3校体育館	3人	3人	無料	無し
鶴ヶ島市部活動の地域クラブ化実行委員会（女子）	直営	バスケットボール	月４ 回	午前及び午後の3時間程度	1年生 28人 2年生 16人	令和6年12月	鶴ヶ島市立鶴ヶ島中学校ほか3校体育館	3人	3人	無料	無し

2.実証内容と成果

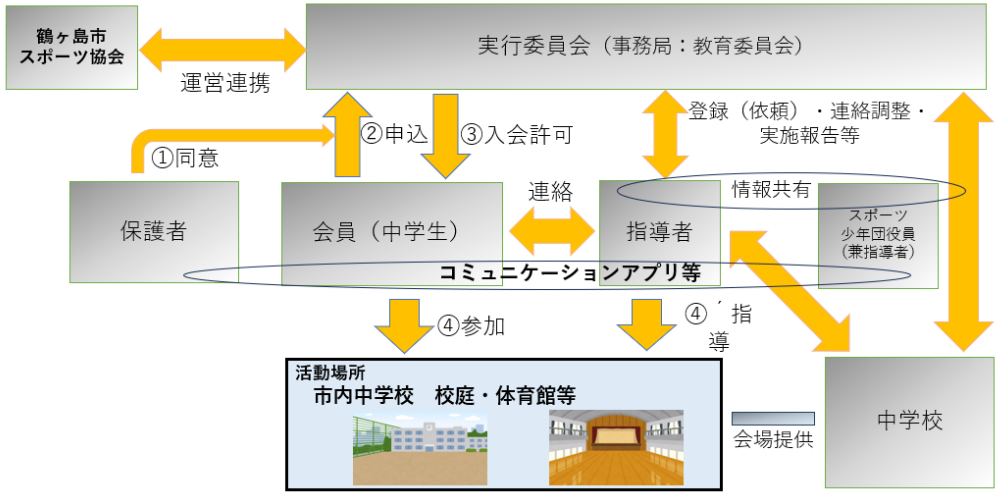
スポーツ庁

主な取組例

●鶴ヶ島市部活動の地域クラブ化実行委員会活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バスケットボール
運営団体名	鶴ヶ島市部活動の地域クラブ化実行委員会
期間と日数	12月1日 ～ 12月22日（月4回）
指導者の主な属性	高等学校バスケットボール部指導者 スポーツ少年団指導者
活動場所	中学校体育館
主な移動手段	自転車及び自家用車による送迎
１人あたりの参加会費等（年額）	無料
１人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒１人あたり：1,450円/年 指導者１人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●実行委員長

役割：実行委員長は、本会を代表し、会務を総理、運営の統括

●指導者　２名

役割：参加者への指導を行う

●指導補助者　１名

役割：参加者への指導補助を行う

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

〇実行委員会を実施主体とし、通常の部活動に代わるスポーツ活動の場を設置する。

〇実行委員会は、スポーツ協会等の地域のスポーツ団体による運営を見据えたものとする。

〇連絡手段としてBAND等のアプリを活用しながら実施する。

取組の成果

〇クラブの運営、関係機関との調整を行うために実行委員会を庁内に設置した。

〇実行委員会は、庁内及び学校関係者との調整には機能した。将来的には市スポーツ協会等の団体が担うことを想定しているが、関係役員との事前相談では時期尚早との判断となった。

〇クラブ内の連絡手段として通信アプリ「BAND」を使用した。運営主体と指導者で１アカウント、運営主体と参加者で１アカウントの計２アカウントで運用した。

〇当日の欠席連絡など、緊急時は個人のスマートフォン等を使用する場面があった。

クラブ内の連絡手段



出典：通信アプリ「BAND」

今後の課題と対応方針

●地域クラブの設置にあたっては、人件費などの運営経費が必要になることや、会費徴収で賄えない部分の経費について、誰が負担することになるのか課題が残る。また、既存の中学生のクラブチームが複数存在しており、当該クラブに公的資金を投入することにより、既存のクラブの取り扱いなど慎重に検討しなければならない。

●通信アプリの使用は、通常の連絡方法として効果があるが、当日や非常時はクラブ専用電話など別途連絡ツールが必要。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項	登録者属性	種目	資格有無
○指導の質を担保するため、有資格者中心の募集活動により指導者を確保する。 ○地域の実情に応じた指導体制が構築できるよう、本事業を通じ、市内のスポーツ少年団等との関わり方を研究する。	職業　公務員　　２名 　　大学講師　１名 実行委員会による直接的な指導依頼	バスケットボール （高校生指導） （小学生指導）	○バスケットボール協会 資格Ｃ級指導者 ○スポーツ少年団 スタートコーチ

取組の成果

●事業の実施にあたり視察会を開催。「指導に興味がある」との回答を得たが、スポーツ少年団への事前の聞き取りでは、「今はクラブ運営で余裕はない」との声が聞かれた。

●指導体制については、既存のクラブチームやスポーツ少年団での体制から、拡充した指導体制を構築する必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

〇市内のスポーツ協会及びスポーツ少年団や民間のスポーツクラブとの情報交換をはじめとした連絡体制を密にし、関係性を強化することで、地域クラブ化への移行を促進する。

取組の成果

〇中学校長会に出席し学校の協力を求め、施設の使用や備品の使用許可と所属部活動の顧問の理解を得た。

〇近隣大学の協力を得て、スポーツ科学生の運営補助を導入した。

〇スポーツ少年団の協力を得て、当日の指導補助を導入した。

〇当市の「スポーツ推進審議会」や「スポーツ少年団」、「スポーツ推進委員」への事業紹介や報告を行い、理解を深める機会を得た。

〇民間事業者には、今回の実施への関連性が低かったため、関係性を構築することができなかった。

今後の課題と対応方針

〇今後、スポーツ団体の地域クラブ化への関係性を構築するために、直接的な事業協力に係わらず、多くの競技団体や民間事業者等に本事業に参画いただくことや必要性を説明していくことが必要である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　エ：面的・広域的な取組

取組事項

〇市内全ての中学校を対象に１クラブで男女別を想定している。
〇検証結果により、他のクラブでも実施可能の場合は、関係機関との協議を行い、合意形成された場合は速やかに地域クラブ化を進める。

移動手段

〇当市は徒歩通学が多くを占めているが、市内のクラブチームが使用している方法で運営した。
・徒歩
・自転車
・自家用車による送迎

事務局運営の方法

〇鶴ヶ島市教育委員会内にクラブの実行委員会を設置（運営主体）
〇実行委員長（生涯学習スポーツ課）がクラブを統括
〇事務局員（生涯学習スポーツ課担当職員）がクラブ運営を行う。

取組の成果

〇比較的指導者が多いとされるバスケットボールを対象として、男女各１クラブを設置したが、市内クラブチームやスポーツ少年団の指導者に地域クラブへの派遣の可能性について、現状では難しいとの回答を得た。
〇他の団体として剣道では、中学校部活とスポーツ少年団のつながりが深いことが判明した。

今後の課題と対応方針

●市内クラブチームやスポーツ少年団の指導者の更なる育成が必要である。
●競技ごとの指導者の状況を調査し、指導者体制に応じたクラブ化への促進が必要である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実

取組事項

〇活動プログラムを指導者と実行委員会回共同で作成する。

活動の詳細

参加人数	81 人	指導者数	3 人
属性	市内中学校のバスケットボール部所属の部員のうち本事業に申し込んだ人		
具体的な内容	〇当初、指導者と活動プログラムを共同で作成予定であったが、実現には至らなかった。 〇理由は指導者が高等学校教員であり、多忙なうえ、運営側との調整の時間が取れなかったことによる。 〇活動プログラムは、事前情報で参加者の様子を伝えてあることで、概ね指導内容を用意いただいた。以後は用意したプログラムを修正しながら実施した。 〇指導者の職業などの属性により、指導プラグラムづくりの方法が異なる。 〇今後は、指導概要をあらかじめ、運営側で整理しておき、対応する必要がある。		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

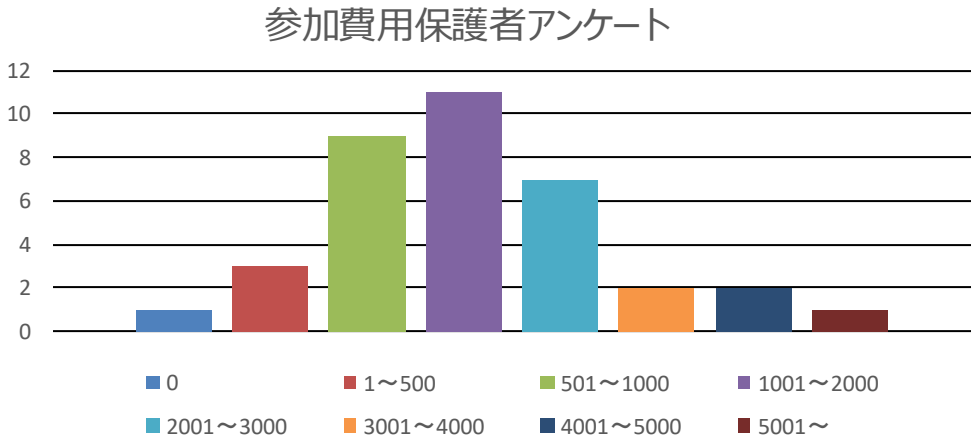
スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等

取組の成果

〇学校外の活動であるため、受益者負担が原則であることが考えられるが、第１回目のモデル事業として実施するため、無料にて行うこととした。
〇事業実施後のアンケートでは、8割の生徒が活動を継続したいと回答。
〇「事業を継続してほしい」、「休日の部活動に賛成」と半数の保護者が回答。
〇しかし、「費用が掛かっても参加させる」との保護者は２割に満たず、別途費用が掛かることに関し、理解を得るのはなかなか難しい状況が伺える。
〇記述の参加費用については０円から10,000円と幅広く意見あり。
〇1,000円から2,000円の意見が多い。



出典：鶴ヶ島市部活動地域クラブ化モデル事業に関する調査

地域クラブに係る経費
持続的な運営に必要な受益者負担額の試算
収支バランス

〇無料にて事業を実施したことや、運営主体を教育委員会で行ったため、クラブ経費や運営に必要な参加費用、また、収支に関するの算出はできなかった。

今後の課題と対応方針

●保護者には、これまでの部活動になぜ参加費用が不要だったのか等、丁寧に説明する必要がある。
●スポーツの意義と共に、クラブの加入にあたり、参加費用がなぜ必要なのか、併せて説明する必要がある。
●会費設定は低廉にするために、公的な資金の投入や民間資金の活用の検討が必要である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　キ：学校施設の活用等

取組事項

〇他の公共施設を使用することもできるが、他の市民への使用枠の減少などの影響を考慮し、学校体育館を活用することとした。

〇学校部活動の通常の活動時間に合わせ事業の実施を行う。また低廉な会費設定が求められることから、学校備品活用の調整を行った。

取組の成果

〇運営主体として、会場提供中学校の体育館と備品の借用依頼を行ったが、概ね良好な状態で理解を得た。
〇高額なスポーツタイマーなどの備品は、指導者の持ち込みとしたが、事業終了後には、学校施設であるものは全て活用したいとの意見があった。
〇施設の使用にあたっては、既存の学校体育施設開放制度を活用して、施設の鍵の借用～施設使用～返却と特に問題がなく実施ができた。

今後の課題と対応方針

〇事業の活動日は、体育館を使用する全ての部活動を休止としたが、他の部活動との面分割使用や入れ替え等があった際の事故や怪我などの対応が課題として残るが、今後、対策について検討する必要がある。
〇運営主体が行政であるため、今後スポーツ協会などのスポーツ関係団体になった場合は、別途利用のルールづくりをする必要がある。
〇学校備品の使用については、どこまでが借用範囲か、整理しておく必要がある。

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

当市では、市内の指導者や運営主体となり得るスポーツ団体に依頼ができない状態のなか、行政の主導にて実施をした。

指導者の確保や参加費の設定、並びに運営主体の確保など、課題が多数存在することが、現実的な事業化の障壁となることを再認識した。

しかし、事業の実施までの間に学校、スポーツ少年団との説明や理解を重ね、事業の実施中にスポーツ関係団体等の視察会を開催し、活動中のこどもたちの眼前に、興味や協力したい等の声も聴くことができた。

事業実施後には、報告を各種スポーツ団体に行うなどし、こうした機会が移行への理解と協力への一助となってくるものと理解もできた。

また、この事業に係わりが直接無かった団体が数多くあるが、多様な機会を通じて、説明や実施事業を見ていただくことも大切である。

当市のこどもたちの置かれている状況を丁寧に説明し見ていただくことで、当該クラブが地域社会の中で生涯スポーツとして機能すると思われる。

●成果の評価

地域資源の掘り起こしが不十分な状況の中、事業の準備を行い、「事業をやる」が先行してしまった感があるが、結果としては、事業を通して、地域スポーツの指導者や運営主体となる団体関係者たちに「興味が湧いてきた」、「これなら少し協力できるのではないか」という状況を作りだせたのではないかと考えられる。

また、参加者からは、比較的好評であったが、これは一時の感情であり、実際に顧問から離れることへの心情などは聞き取りができていないため、大人達だけの都合で進めてしまっても良いのか不安な部分もある。

現実的には課題が山積しており、この内容で即、本事業の実現には結びつかないが、出発地点からわずかに進んだ印象となっている。

●今後に向けて

地道なモデル事業の実施と課題への対応の繰り返しが市民意識の醸成となり、地域のこどもたちを地域で育てることに繋がると考えている。

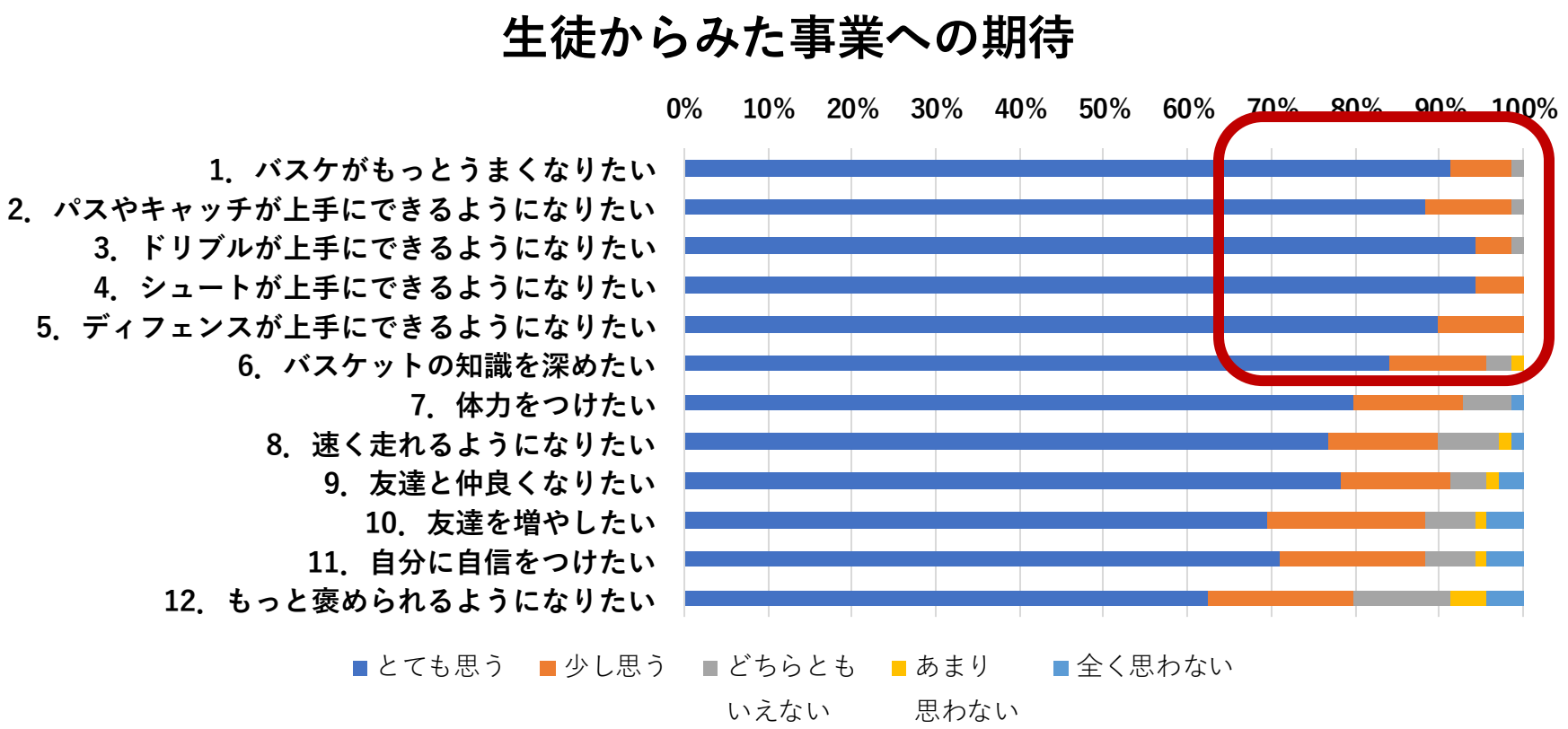
課題を抱えながらも、地域のスポーツ関係者と共に考え、当市のあったクラブつくりができるよう努めたい。

2.実証内容と成果②

スポーツ庁

アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果



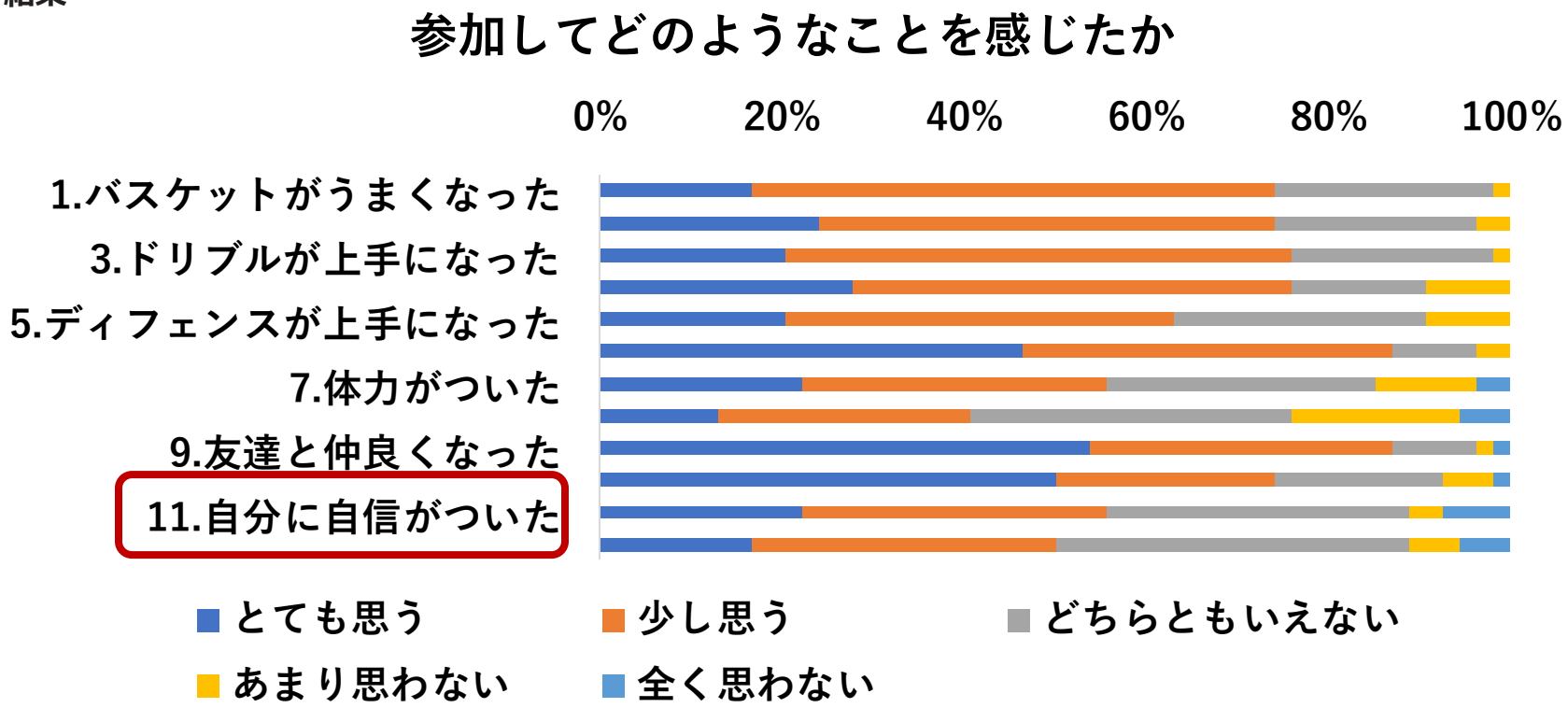
[事業にどのような事を期待してるか]の質問に対して、
全般に新しい事業のスタートに対しての期待が大きく、すべての項目で「とても思う」の回答で60%以上を示している。
特に種目(バスケットボール)の技術や知識といった専門性の向上への期待が大きい。

2.実証内容と成果②

スポーツ庁

アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果



参加してどのように感じたかの質問に対して

種目の技術や体力の向上に関しての「とても思う」の回答は少ない。 全4回と開催が少ないため、そのようなことを感じるには至らなかったためと考えられる。
一方で知識に対しては90%程度の子どもが「深まった」と回答しており、普段の部活動と違う指導者と関わることで新たな発見や気づきがあったことが伺える。
事業への期待では比較的少ない回答数であった「友達と仲良くなった」「友達が増えた」の項目の回答が高くなっている。
集まって一緒に練習することは、他校の生徒との関わりあいも増え、社会性の向上につながると考えられる。
短期間の実施ではあったが、記述にも「他校との交流」「仲良くなった」などのコミュニケーションに関するものが多くみられた。

2.実証内容と成果②

スポーツ庁

アンケート結果・参加者の声

●参加者の声

中学生（Aさん）〇
自分たち以外の学校の人たちとできて、じぶんの成長につながった。上手になった。基本がしっかり学べた。

中学生（Bさん）〇
違う中学校の人とやって友達が増えたし、楽しくできた。いつもとやり方が違うから、いろいろなやり方があってよかった。

中学生（Cさん）〇
学校ではやらない基礎を楽しく学ぶことができるので、続けたいと思った。

中学生（Dさん）△
他校まで距離があるので通いにくい。

指導者（Aさん）
運営管理者との連絡等は小まめに連絡をいただいていましたが、あらかじめ特性を知っておいたほうがよい生徒がいた。
地域クラブの指導者の確保については、謝金をはじめとした待遇次第ではないか。
今回勤務地や居住地から遠かったため、毎週定期的に指導するのは難しい。

指導者（Bさん）
事前の会議では不透明な部分もあり、終着点が見えない話し合いが続いた印象がある。校舎内にシューズを忘れてしまった生徒が多くいた回があった。運営のほうでできないか。
現状は自分のチームを優先しているため、指導の継続は難しい。指導者の確保を考えるのであれば専属できるくらいの金額を給金として準備するようが良い。

2.実証内容と成果③

スポーツ庁

アンケート結果・広報資料

●生徒、保護者への案内については、各中学校の顧問を通じ配付・回収を行った

鶴教生第１０４８号
令和６年９月２４日

市内各中学校
バスケットボール部所属生徒・保護者　様

鶴ヶ島市部活動の地域クラブ化実行委員会
実行委員長　〇〇　〇〇
（鶴ヶ島市教育委員会生涯学習スポーツ課長）

鶴ヶ島市部活動の地域クラブ化モデル事業（バスケットボール）への参加申込みについて
（御案内）

日頃から、本市の教育活動にご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。
市教育委員会では、こどもたちが将来にわたってスポーツ文化活動に継続して親しめる機会を確保し、休日における地域のスポーツ・文化活動を実施できる環境の整備に取り組んでいます。
そこで今年度、市内中学校バスケットボール部所属の参加希望者を対象に、部活動の地域クラブ化モデル事業を行います。
つきましては下記により参加申込みの受付を行います。ご理解を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

記

１　申込対象　　市内中学校バスケットボール部所属の生徒のうち参加希望者

２　事業概要　　別紙「令和６年度鶴ヶ島市部活動地域クラブ（バスケットボール）モデル事業概要」のとおり

３　申込書類　　参加申込書及び健康状態申告書

４　申 込 先　　所属の部活動顧問へ提出

５　申込期限　　令和６年９月３０日（月）

６　問合せ担当課

事業実施に関すること
（実行委員会事務局）
鶴ヶ島市教育委員会
生涯学習スポーツ課
電話 049-271-1111

部活動の運営に関すること
鶴ヶ島市教育委員会
学校教育課
電話 049-271-1111

鶴ヶ島市地域クラブ（バスケットボール）参加申込書
鶴ヶ島市地域クラブ実行委員長　〇〇　〇〇様

受付 NO.

申込者氏名	（ふりがな）		
生年月日	平成　年　月　日	性別	男 ・ 女
学校名	中学校	学年	年
住所	〒 鶴ヶ島市		
自宅電話		携帯電話	
E-mailアドレス			
緊急連絡先			
保護者氏名		続柄	
備考			

上記のとおり、貴クラブに参加したく、別添健康状態申告書を添えて申し込みます。
なお、本情報については、クラブで使用するほか、所属学校にも共有することに同意します。

申込日　　令和６年　月　日

申込者氏名（自署）

保護者氏名（自署）

【生徒・保護者への参加参加申込案内】 出典:鶴ヶ島市生涯学習スポーツ課

2.実証内容と成果④

スポーツ庁

参考資料（活動写真）



【実技後の指導者指導】



【課題練習】



【指導者の模範実技】



【集団実技練習】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年		令和6年			令和7年
協議会設置、検討開始	種目の選定、指導者の選定、実施校の選定	学校現場との調整	生徒、保護者への説明	地域クラブ活動の開始	地域クラブ活動の他種目への展開

ステークホルダー

中学校、スポーツ協会、競技団体、市教育委員会

経過

令和5年度より部活動の地域クラブ活動移行検討委員会を設置し、移行後の目指す姿とモデル事業の検討を行うため、同年に職員アンケートを実施し、モデル事業案を作成した。令和６年度は、運営団体として、学校関係者、指導者、行政等で組織する実行委員会を設置し、クラブ活動のモデル事業の詳細を決定した。

実施内容

12月の市内５中学校の男女バスケットボール部活動の休日の部活動を停止し、地域クラブへ参加する試験的な取組を実施した。男女のクラブは市内５中学校の生徒が参加する形態で、原則徒歩通学の生徒をクラブチームの活動を参考に、徒歩、自転車、自家用車による送迎を可とした。

実施にあたって生じた課題

休日のクラブ活動の準備において、指導者の確保が早々に問題となった。どのクラブにおいても、説明が不足していた点は否めないが、指導者の派遣依頼については、市内の団体からは余裕が無い等として協力していただけなかった。また、実施日については、学校行事が多くあり、これに配慮した日程を組むことが容易でなかったことが挙げられる。さらに、市内全ての中学校より参加者を募集したこともあって、意識や技量についても、幅が広く、目指す活動のあり方の設定を難しくさせている。

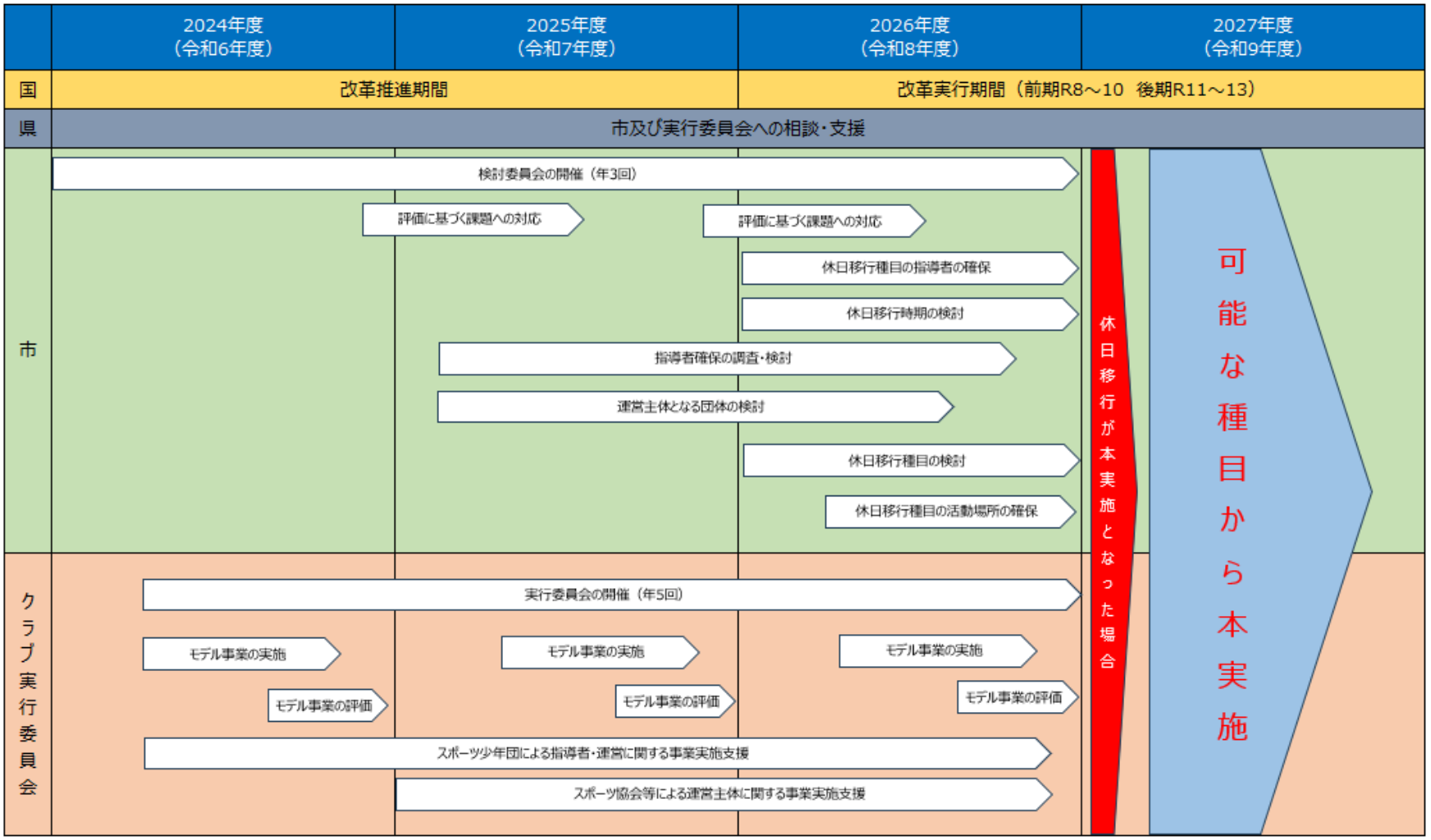
今後の展開

令和７年は、他の種目の休日の地域クラブ活動を実施する。指導者は、持続可能な指導体制を確保するため、部活動の外部指導員や退職教員の採用を検討する。運営主体の整備については、地元スポーツ協会に説明などの働きかけを行っていく。会費負担の必要性については、保護者に対し、機会を捉え説明していく。

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ



出典:鶴ヶ島市生涯学習スポーツ課

※学校については、現時点対応が未定であることから掲出していない